

帰宅困難時 看護師ら派遣

京都市と洛和会が協定 山科、災害発生で

京都市と医療法人社団「洛和会」(山科区)は30



京都市山科区で帰宅困難者が発生した場合の対応について協定を結んだ京都市の松井市長(前列左)と洛和会の矢野理事長(同右)＝市役所

日、災害時の帰宅困難者対策についての包括協力協定を結んだ。山科区で帰宅困難者が発生した際、洛和会が運営する音羽病院など同区内の3病院から看護師らを現地に派遣する。

2023年1月の大雪でJR西日本の列車が止まり、JR山科駅に多数の滞留者が出たことを受け、同会側が提案した。今後、山科区で帰宅困難者が発生した場合、専門訓練を受けた看護師を派遣し、傷病者の手当てをしたり、救急搬送の必要性を判断したりす

る。防災に関する市の広報活動にも協力するという。

市役所で開かれた締結式で、洛和会の矢野裕典理事長は2年前の大雪で患者の受け入れ以外ことができず、もどかしさがあったと明かし「次に生かす協定になれば」と語った。松井孝治市長は「(29年度にも)山科駅に特急はるか」が発着するようになり、拠点性が高まる。来訪者が帰宅困難になるリスクが高まっている」と述べ、協定の意義を強調した。(田代真也)